

## 2011年国内需要実績/2012年需要予測統計

(単位:トン)

	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	11/10%	2012(予測)	対前年比%
ダイカスト	9,334	9,633	9,930	9,640	7,684	5,493	6,878	5,742	83.5%	6,000	104.5%
鋳物	97	80	95	109	92	120	76	92	121.1%	100	108.7%
マグネ射出成形	1,562	1,565	1,261	1,030	587	328	168	220	131.0%	200	90.9%
その他合金	1,091	1,051	1,091	1,116	905	342	1,165	1,104	94.8%	1,100	99.6%
構造材小計	12,084	12,329	12,377	11,895	9,268	6,283	8,287	7,158	86.4%	7,400	103.4%
アルミ合金添加	19,128	18,312	18,694	20,237	20,124	17,552	20,185	19,616	97.2%	20,500	104.5%
鉄鋼脱硫	7,384	9,922	9,041	9,048	7,859	4,075	5,814	6,124	105.3%	5,500	89.8%
ノジュラー鋳鉄	2,543	1,534	2,548	2,526	2,352	2,238	2,358	2,306	97.8%	2,300	99.7%
チタン製錬	539	420	525	584	724	600	400	1,193	298.3%	900	75.4%
添加材小計	29,594	30,188	30,808	32,395	31,059	24,465	28,757	29,239	101.7%	29,200	99.9%
粉末・その他	4,093	3,066	2,823	2,286	1,795	1,241	897	1,340	149.4%	1,400	104.5%
内需小計	45,771	45,583	46,008	46,576	42,122	31,989	37,941	37,737	99.5%	38,000	100.7%
輸出	313	395	1,011	859	891	567	1,956	2,583	132.0%	2,300	89.1%
総需要	46,084	45,978	47,019	47,435	43,013	32,556	39,897	40,320	101.1%	40,300	100.0%

※この数値は、マグネシウム新地金の輸出入量・出荷量を基に算出しています。再生材は含んでいません。

(日本マグネシウム協会調べ)

## &lt;2011年の需要実績&gt;

- ①東日本大震災、タイの洪水、超円高の影響により、構造材部門は減少したものの、添加材、粉末等が安定して推移したことから、2011年のマグネシウム総需要量は40,320トンとなり、前年比1.1%の微増となった。
- ②マグネシウム合金を使用する構造材部門の需要は、自動車産業が震災や洪水の影響を大きく受けたため、主力のダイカストが前年比16.5%減の5,742トンとなり、構造材部門全体も、7,158トンと前年比13.6%減となった。
- ③純マグネシウムを使用する添加材部門の需要は、震災からの復興・復旧により建造物等の需要増が予測されたことから、合計で30,000トンに達すると期待されたが、チタン製錬向けが1,193トンで前年比198.3%増となったものの、アルミ添加向け19,616トン(前年比2.8%減)、鉄鋼脱硫向け6,124トン(同5.3%増)、ノジュラー鋳鉄向け2,306トン(同2.2%減)が前年並みに落ち着き、添加材合計では29,239トン、同1.7%の微増にとどまった。
- ④輸出部門は、米国、ブラジル向けの合金輸用量が増加し、2,583トンで前年比32%増となった。

## &lt;2012年の需要予測&gt;

- ①自動車産業の回復基調もあり、構造材部門全体では3.4%増の7,400トン、その内のダイカスト需要は4.5%増の6,000トンと予測した。
- ②添加材部門は、震災復興による建造物等の需要は落ち着くとみられることから、アルミ添加は2011年から微増、鉄鋼脱硫・ノジュラー鋳鉄・チタン製錬は2011年を下回り、添加材合計では29,200トン、前年比0.1%減と予測した。
- ③全体的にはほぼ横這いの推移をするものと見られ、2012年の総需要量は、40,300トンと予測した。